

請 願 文 書 表

受 理 年 月 日	平成22年6月28日	請 願 者	近江八幡市若葉町5-1871-11 新日本婦人の会 近江八幡支部 事務局長 竹本 キク子
受 理 番 号	請願第 4 号		近江八幡市安土町常楽寺633 新日本婦人の会 安土支部 支部長 水 富子
請 願 件 名	子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求める請願書		
請 願 要 旨	【請願趣旨】 子宮頸がんを予防するワクチンが日本でも認可され、接種が始まりました。 子宮頸がんは、日本の20歳代の女性では乳がんを抜いて発症率が一番高いがんで、年間15000人以上が発症し、約3500人が命を落とされています。子宮頸がんは性交渉時のヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因の一つであり、予防HPVワクチンが開発され、ワクチンで予防できる唯一のがんとして、10歳代の女性を対象としたワクチン接種により、将来的な子宮頸がんの発症数を減らすことが期待されるようになりました。 しかしながら現時点では、3回の接種に合計約5万円前後の費用が必要となるため、公的支援が不可欠です。 すでに世界では100カ国以上でこのワクチンが使われ、先進国30カ国で公費助成が行われています。日本産婦人科学会や日本小児科学会も11歳から14歳の女子に公費負担で接種するよう求めています。日本でも栃木県大田原市が学校で集団接種するなど、自治体が独自の助成を開始しています。 近江八幡市におかれましても、女性の命と健康を守るためにも、一日も早く公費助成の実現を求めます。 【請願項目】 1 子宮頸がん予防ワクチン接種について、市独自の助成制度の創設。 2 子宮頸がんワクチン接種については、定期接種対象に位置づけるように、国へ働きかけること。		
紹 介 議 員	川崎 益弘、小川 廣司		